三つ身襦袢

普通仕立て上げ寸法

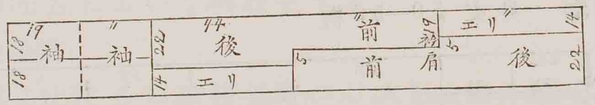
袖丈19糎内外　袖口廣袖　袖附け全部　袖幅いつばい　身丈42—45糎　身幅前後共いつばい　身八つ口8糎　衿肩明き4·6糎　衿幅3—4糎　馬乘り8糎　袖下馬乘り4糎

裁ち方積り方

○常幅の布を以て三つ身襦袢の裁ち方積り方。

所要裁ち切り寸法

袖丈19糎　身丈44糎



積り方公式　2袖丈＋3身丈＝用布

同　算　式　19×2＋44×3＝170

一つ身襦袢

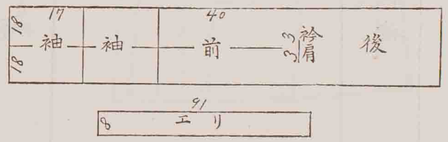
普通仕立て上げ寸法

袖丈15糎内外　袖口廣袖　袖附け全部　幅袖いつばい　身丈39糎内外　身幅いつばい　身八つ口8糎　衿肩明き3糎　衿幅2—2·5糎　袖下馬乘り4糎　馬乘り8糎

○常幅の布を以て,一つ身襦袢の裁ち方及び積り方。

所要裁ち切り寸法

袖丈17糎　身丈40糎　衿布は別布で幅8糎丈91

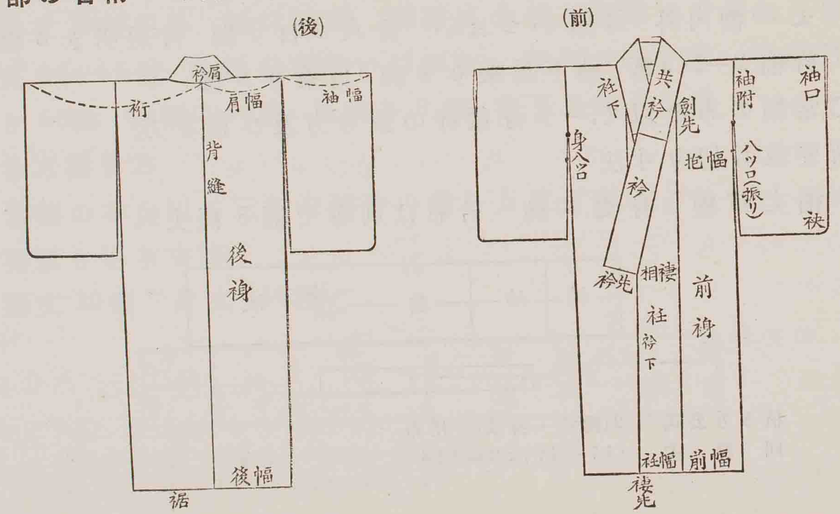


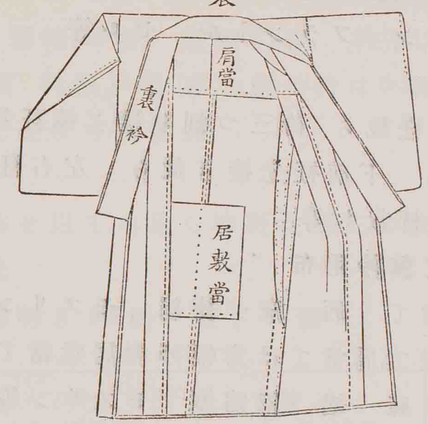
積り方公式　2(袖丈＋身丈)＝用布

同　算　式　(17＋40)×2＝114

女單衣裁ち本

各部の名稱　圖參照





地質

綿布＝木綿　縮　綿ネル等

麻布＝生平　奈良晒　越後上布　薩摩上布等

絹布＝銘仙　縮緬　絽縮緬　絽錦紗　御召　羽二重

明石　絽　紗　透綾等

毛布＝モスリン　フランネル　セル等

裁ち方の種類

棒衽裁ち　鈎衽裁ち　衿三つ割り接ぎ棒衽裁ち　衿三つ割り接ぎ鈎衽裁ち　下前衽先接ぎ裁ち　左右衽先無し裁ち　衿山接ぎ裁ち　柳裁ち等

肩當て居敷當て裏衿用布

肩當て居敷當て　晒　麻　練絹　モスリン　新モス等の白，又は淡色を以て，肩當ては，常幅95糎，居敷當ては常幅42糎，

裏衿　晒布　麻　絽　絽縮緬　モスリン等の白，又は淡色半幅で，表衿丈と同丈。

備考　裁ち切り衿丈は，普通185糎内外とする。

普通仕立て上げ寸法

袖丈61糎内外　袖口23糎　袖附け25糎　袖幅22糎　身丈148糎内外　身八つ口11糎　衿肩明き9糎　衽下23糎　肩幅30糎　後幅28糎　前幅23糎　抱幅21糎　衿下76糎　衽幅15糎　相褄幅13糎　衿幅11糎（但し紆け衿は5.5糎）　裄63糎

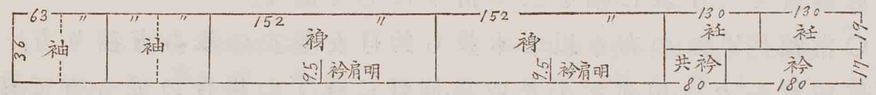
（別表普通仕立て上げ寸法参照）

裁ち方積り方

○常幅1120糎の布を以て，本裁ち棒衽女單衣の裁ち方積り方。

所要裁ち切り寸法

袖丈63糎　衿肩明き9.5糎　衽下22糎



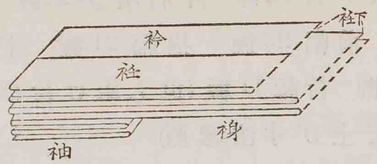
積り方公式　（用布－4袖丈＋2衽下）÷6＝身丈　身丈－衽下＝衽丈

同　算　式　（1120－63×4＋22×2）÷6＝152　152－22＝130

積り方公式　（用布－6身丈＋2衽下）÷4＝袖丈　4袖丈＋6身丈－2衽下＝用布

同　算　式　（1120－152×6＋22×2）÷4＝63　63×4＋152×6－22×2＝1120

折り積りの圖



布の折り方

肩當てと居敷當ての取り方

肩當て　常幅95糎の布を,中表に丈二つに折り更に4糎の差をつけて,丈を二つ折りとし,折り山に褄と同寸に衿肩を明ける。

居敷當て　中表に,幅を二つ折りにして置く。

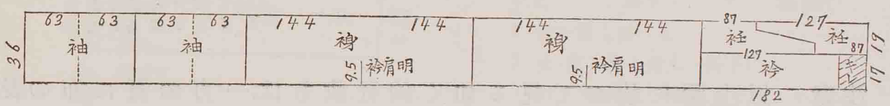
○常幅1042糎の布を以て,本裁ち鈎衽女單衣の裁ち方,積り方。

此の裁ち方は,用布が不足の爲,棒衽に裁てぬ場合の裁ち方で,衽の形が,鈎になつて居るので,棒衽裁ちに對して,鈎衽裁ちと稱へる。

所要裁ち切り寸法

袖丈・衿肩明き・衿下は,前に同じ。衽下 (23－6＝17)　23－6＝17
（仕立上衽下　縫代　裁切衽下　仕立上衽下　縫代　裁切衽下）

鈎下(76＋11＝87)　注意　鈎下は長い程棒衽に近い形になる理であるから用布の丈と身丈とに依つて斟酌すべきである。
（衿下　裕餘　鈎下）

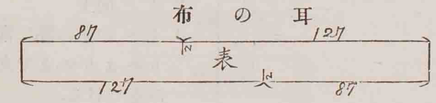


積り方公式　(用布－4袖丈－鈎下＋衽下)÷5＝身丈　身丈－衽下＝衽丈

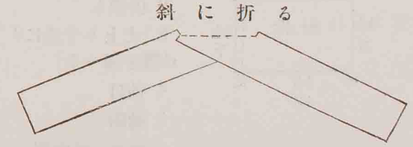
同　算　式　(1042－63×4－87＋17)÷5＝144　144－17＝127

衽の裁ち切り方

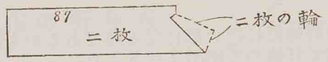
(1) 鈎下を2糎宛切り込む



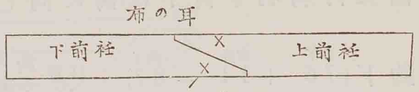
(2) 切り込みと切り込みとの間を斜に折る



(3) 左右の衽幅を揃へる爲
丈を二つに折る



(4) 左右の衽を切りはなす



(3)で附いた折り目
X とXとは等しい。

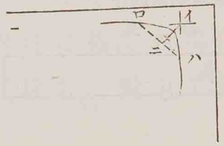
注意　以上圖に依つて見る如く,鈎衽裁ちは,一方の衽に布の表,一方に布の裏が出る故に,必ず上前に表の出る樣に,意を用ひねばならぬ,隨つて片面物には,應用の出來ない裁ち方である。

標附け方

(1) 袖　中表に二枚合せ
丈を二つに折る

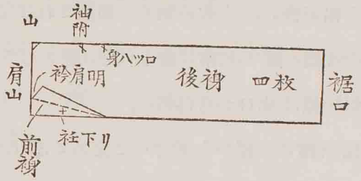
1 丈を裁ち揃へる
2 山標し
3 (丈上り寸法に0•1糎を加へる)
4 袖口
5 袖附け
6 袖形 (圖參照)

(2) 袖形の附け方



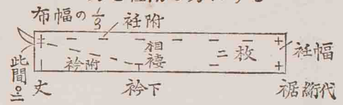
1 イロは丸みの寸法
2 イハ同上
3 イニの½の點に當りハよりロ,まで丸みをつける

(3) 袴　中表に二枚合せ丈を
二つに折る



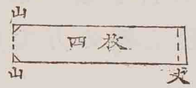
1 丈を裁ち揃へる
2 山標
3 衿肩明き (背縫代)
4 袖附け (袖と同寸)
5 身八つ口
6 衽下 (後をまくりて前にのみ)

(4) 中表に二枚合せて布の耳の
方を衽附の方にする



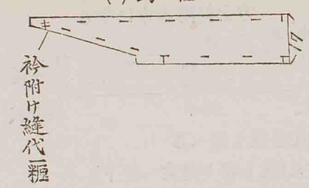
1 丈を裁ち揃へる
2 丈 (裁ち切り身丈－衽下)
3 衿下 (裾縮代1•9を取りそれより上に)
4 下衿縮け代
5 衽幅 (上り衽幅＋0•2)
6 相褄幅 (衽幅－0•2)
7 衽附け
8 衿附け
9 衿丈を度る (衿肩＋衽下＋ユルミ衿附け斜に計る)　9　23　0•4

(5) 衿 表裏別々に中表に二つ折とし
山を揃へて裏衿を下におく



1 山標
2 丈標 (衽に於て度つたもの)

(6) 鈎 衽



鈎衽の標附けも,なるべく棒衽の方と,同じにしたいのであるが,上部の幅が狹いので,次の如くに加減せねばならぬ。

1 衽附け(丈標の處で,衿附け縫ひ代を,1糎として,先づ定める)斜の標は,裾口から自然に。

2 相褄幅(衽附けの標から,衿下へと定める,但し少しの事ならば,相褄幅は廣くなつても,衿下を眞直にする)。

縫ひ方

(1)袖

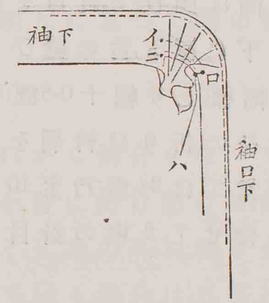
(イ) 袖布を取り,表を外にして,袖下の裁ち目を揃へ假に袖幅を度つて,振りの方では,繕け代の二倍だけ殘し,袂の方では2−25糎殘して,淺く縫ひ,引き返して裏を出す。

(ロ) 振りの方を右に持ち,袖丈標の所(袖下)及び袖口下を縫ひ,袖

口標の處で糸留めをし,その糸を切らずに續けて,袖口を三つ折りにして,繕け附ける。

(ハ) 袖形を拵へ(圖參照)袖下及び袖口下へ,正しく折りをつけて,表に返し,縫ひ目を正しくして,袖幅標をつける(折りは內袖の方へ返す)。

袖形襞の取り方



(イ) より始めて一つ宛襞をおさへて(ロ) に至り (ハ) より襞山を一つ宛すくつて(ニ)に至り再び(ハ)にかへり裏を通つて(ニ)に針を出して留める。

(2)衿下繕け

衿下を三つ折りにし,針目を2糎位にして,衿下標から5·5糎上まで繕ける。

(3)肩當て居敷當て及び背縫ひ

(イ) 肩當ての前後の端,及び居敷當ての一方の端を,伏せ縫ひにして置く。

(ロ) 衿肩を右に持ち,肩當て布を向うに當てゝ,背を揃へ肩當て布のある間は四枚で,針目を細かく背を縫ふ,背縫ひを左にして,裾を平に下に置き,背の縫ひ目から脇の方へ,後幅標(上り後幅＋0・4糎)肩幅標(上り幅十0・8糎)を附ける。

(ハ) 背縫ひの折りは,衿肩を右にして,手前の方へ返す。

(ニ) 居敷當ては,34糎乃至40糎位上げて,位置を定め,幅の中央を背縫ひに合せて,2糎の針目で綴ぢ,上左右の三方を裾に絎け附ける。

(4)脇縫ひ

(イ) 前後の脇を揃へ,左右の脇を縫ふ,折りは前裾の方へ返し,縫ひ込みを,身八つ口の,つらぬ様後裾の方へ開いて,折り山を綴ぢ

身八つ口から上,肩幅の標に當つて,袖附けの折りを附けて置く。

(ロ) 次に身八つ口止りから,裾口まで,脇の縫ひ込みの端を耳絎けにする。

(ハ) 前幅標　裾口で,脇の折り被せの山から,前幅標(上り前幅＋0・2糎)を附け,抱幅標は(抱幅＋0・2糎)を附け,裾の標に當つて,間の標をする,なほ上部は抱幅標から,衿肩明きに當つて,間の標を附ける,(標の間隔18糎位)

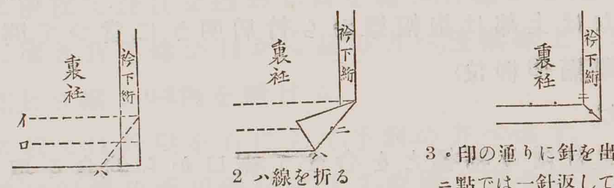
(5)衽附け

前幅標と衽附け幅標とを合せて,裾口から釣合を取つて,衽を附ける,折りは衽の方へ返し,縫ひ込みを衽に絎け隠ける,但し上部衿附けの中になる處は,絎けずに置く,又布の耳に,變り糸が織り込まれてある時,或は耳糸の長く出て居る場合は,耳絎けにせず,折り絎けとする。

(6)裾絎け

裾口の絎け代2糎を,三つ折りとし,褄先の所は圖のやうに折つて背·脇·衽附けの縫ひ目に,待ち針を刺し,上前褄先から絎け始めて,下前で終る,但し絎け目1·2糎にして,背·脇·衽の各縫ひ目では,逆針を使つて,固く留めおく。

褄先の仕方圖解 (1) (2) (3)



イ 線は裾の絎け代
ロ 線は裾の絎け山
1 イロ線を折る
2 ハ線を折る
3・印の通りに針を出してニ點では一針返して裾絎けをする

(7)衿附け

(イ) 表衿と裏衿とで,袵を挾んで衿を附ける,附けの縫ひ代を0·8糎として,衿山と背とを合せて,三つ衿縫ひ代は,背で0·9糎衿肩廻

りで0·4糎,其の間を自然に形よくして,待ち針を刺し,それから左右へ釣り合ひを取る。

衿肩廻りから,衽先までは,心持ち衿をゆるく,劍先から下8糎の間は平に,それより衿先までは少しく衿を釣り加減にして,下前衿先から,附け始めて,衿先き4糎の間は返し針,劍先は極小さく一針留め,衿肩廻りは小針に,背では,一針返し針にし,上前も同様にして附け終る,被せを正しくかけて表を出す,但し共衿の掛かる間は,被せは掛けぬ。

(ロ)衿幅標。表裏の衿を重ねたまゝ,表衿の方から20糎置きに衿幅標を附けて,衿先を表衿·衽·裏衿の順に,淺く針を刺して留め,其の絲で衿先を縫ふ(留めの位置より0·4糎先を衿幅標まで),折りは裏に返して,縫ひ込みを,衿附けの縫ひ目に綴ぢ附けて置く。

(ハ)三つ衿芯 晒布等で,半幅23糎(出來上り衿肩明きより凡そ3糎長いものゝ二倍)のものの,丈の山を表衿山の中央に合せ,芯布

を平になる樣に衿附けの縫ひ目に,綴ぢ附ける,衿を平にして,中の縫ひ込みの,引きつらぬ樣,十分伸ばした上,三つ衿芯の兩端を,前褄の縫ひ込みに,つれない樣に綴ぢ附ける。

(8)衿紮け　衿先の縫ひ込み,前褄の縫ひ込み,三つ衿芯等は,表衿にくるみ,衿幅を標通りに折り,裏衿はそれより0·4糎控へて,衿先4糎位の間,自然に裏を控へて,褄形を作る,處々に待ち針を刺し0·8糎の針目で衿紮けをする。

(9)共衿掛け

(イ) 下衿の縞や,模樣に合ふやうに,共衿の幅の兩端の紮け代を,裏へ折り返へす。

(ロ) 丈の兩端は,布目を眞直に,1·3糎の縫ひ代に裏に折る。

(ハ) 丈を二つ折りにして,山を背と合せ,待ち針を刺し,左右へ平に釣合を取り,丈の兩端を,0·8糎の縫ひ代で,表衿に縫ひ附ける。

(ニ) 表を出し,丈の縫ひ込みを,程よく中へ折り込み,角は小さく,

一針返して紮け始め,下前角で終る。但し紮ける時,共衿を表衿より0·2糎先に出して,針目細かに,流れ針の出來ぬ樣にして紮ける。

(ホ) 衿幅の方を紮け附ける。

(10 袖附け

袖山と肩山とを合せる,褄は肩山で縫ひ代を0·4糎とし,附け止りで極淺く,中間では0·2糎として,附け始めと,終りと肩山では,2糎の間返し針に外は針目細かに縫ひ,被せを淺くして,袖の方へ折りを返す。

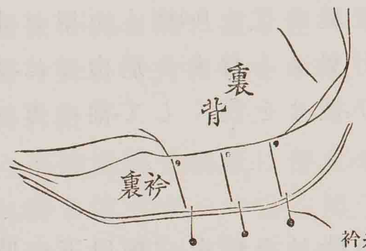
(11)振り紮け

袖幅標を折り,縫ひ込み2糎以上の時は全體を,2糎以下の時は附け止りから前後,4糎上までを,耳紮け又は折り紮けにする。

注意　振り下では,一針返して,縫ひ込みの崩れぬ樣,又袖下縫ひ込みの端をも,必ず一針留めて置く。

肩當て幅と身幅との釣り合ひをとり,袖附けの縫ひ目の際に絎け附ける,但し袖附け止りより下,身八つ口の所まで,肩當て丈のある時は,その處は,表の折り山より0·2糎以上控へ絎け附ける。

(12) 衿糸白木綿糸二本を撚り合せて,三つ衿に三箇所,衿糸を附ける (圖參照)。



(13) 仕上げ

糸屑を取り去り,裏から一様に霧を吹き,縫ひ目を落ち附けて正しく疊み附ける,但し縮類と,染色の落ちる恐れのあるものは,霧を吹いてはならぬ。

絹布·毛布,女單衣の仕立て方

(1)絹布女單衣仕立て方の,綿布と異る點。

(イ) 絎け糸には,羽二重糸を用ひる,但し袖口·竪褄·裾は丸,糸で絎ける。

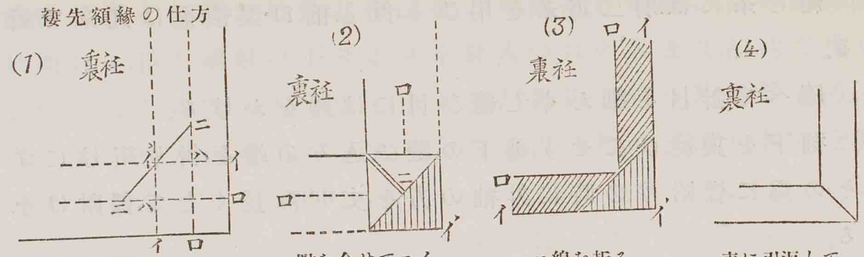
(ロ) 總べて針目を細かくし,縫ひ目には鏝をかける。

(ハ) 袖下を袋縫ひにせず,袖下の縫ひ込みの端を,折り絎けにする,その爲に,標附けの時に外袖の方を,丈0·8糎長くして,標附けをする。

袖口は,極細く絎けるか,又は地質に依つては,撚り絎けにする,從つて袖口下の縫ひ代は,淺くなる。

(ニ) 衿下絎け　褄先を圖の如く額縁縫ひにし,衿下及衽裾を,三つ折りにして,假躾けを掛け置く。(圖參照)

褄先額縁の仕方



イロ線は裾絎け代
イロ線に折り目をつけ
ハ點より各裾絎け幅を取
りてニ點を定めるニ點
とイ間は等しい

ニ點を合せてニイ
間を返し縫ひにし,
縫ひ目を割る,縫ひ
込みを折り返す

ロ線を折る

表に引返して
衿下及裾を絎
ける

(ホ)肩當て,居敷當て　肩當ての前後の端を,細く三つ折りにして絎ける,居敷當ての四隅を,4糎位の斜に折り,周りを0·8糎裏に折り,周圍全體を絎け附ける。

(ヘ)背縫ひ　縫ひ代を平になる樣,一枚づゝ折つて絎け附ける。

(ト)脇縫ひ　後幅の標通り脇を縫ひ,其の縫ひ目より,縫ひ込みの方へ0·4糎はなれて,再び縫ひ,(身八口止りでは,始めの縫ひ目と自

然同じになるやう)折りは前に返し,第二の縫ひ目から縫ひ込みを,前後に開き,縫ひ込みの端は,全體折つて絎け附ける。

(チ)衽附け　衽を普通に附け,縫ひ込みの端を,折り絎けにする。地質の薄い物の衽附けは,前幅標から縫ひ代0·8糎を,縫ひ込みの方へ折り出して,折り附けにし,その縫ひ目から,前褄の縫ひ込みを衽の方へ返して,縫ひ込みの端を絎け附ける,即ち衽附けの縫ひ目が,裏の表に表れない樣にする。

(リ)　薄物の場合,肩當て居敷當てが透くので,別に布を附けぬ事がある,此の場合,背は縫ひ代を,折つて絎け附けるか,又は2—2·3糎幅の布(なるべく共色又は似よりの色)を共に縫ひ附けて,縫ひ代を包んで絎け附ける。

肩當て布は共布を以て,衿肩廻りだけに,小さく當てるのも一法である。

(ヌ)仕上げ　一樣に火熨斗を掛けて,縫ひ目,縫ひ込みを正し,皺を

伸して疊む。

(2)毛布女單衣仕立て方の絹布と異る點

(イ) 縫ひ目は,極小針にし,要所は返し縫ひにする。

綿布,絹布に於て絎けた處は,この仕立てでは,纏り縫ひ又は千鳥縫ひにする,大體薄地のものは,折つて纏り,厚地のものは,耳或は裁ち目の儘,千鳥縫ひにする。

(ロ) 纏り縫ひには,羽二重糸を用ひ(袖口·衿下·裾は丸糸)千鳥には,丸糸を使用する。

(ハ) 袖下の仕立て方は,絹布と同様にして,縫ひ込みは纏り附ける,但し地厚な物の時は,裁ち目の儘千鳥縫ひをする。

袖幅標は,仕立て上げ寸法にする。

(ニ) 背は返し縫ひにし,縫ひ代の輪を纏り附ける,但し裁ち目ならば,絹布と同様にするか,又は袋縫ひにして,後纏り附ける。

(ホ) 後幅標·肩幅標は,仕立て上げ寸法に標する。

(ヘ)脇縫ひ　裾口11·糎の間返し縫ひにし,それより上は,極小針に縫ひ,縫ひ目を割る,縫ひ込みの端を折り,纏り附ける,又地厚な物の場合は,耳の儘千鳥縫ひにする。

(ト)衽附け　絹布の時の様にして,小針に縫ひ,縫ひ込みの端を折つて纏り附ける。

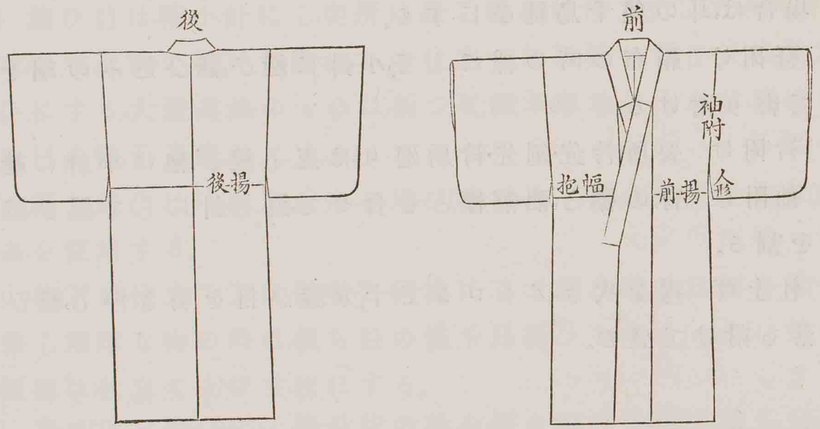
(チ)衿附け　要所(衿先·劍先·衿肩廻り)は,返し縫ひ,他は小針に縫ふ。

(リ)袖附け　袵の標と,袖幅標とを合せて,返し針にして縫ひ,縫ひ目を割る。

(ヌ)仕上げ　霧を吹き,アイロンで十分縫ひ目を引き伸し,縫ひ目を落ち附けて疊む。

本裁ち男單衣

各部の名稱　圖參照



地質及び裁ち方の種類は,略女物に同じ。

肩當て·居敷當ては,女物に同じ,裏衿は,晒布,金巾·メリンス等を用

ひる,用布は,表衿丈と同寸,或は衿先にのみ用ひる,この時左右で57·糎もあれば足りる。

普通仕立て上げ寸法

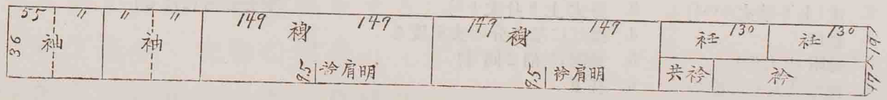
袖丈53糎　袖口28－30糎　袖附け45(人形8)糎　袖幅33－34糎　身丈138糎　衿肩明き8糎　衽下22糎　肩幅32－33糎　後幅30糎　前幅25－27糎　抱幅23糎内外　衿下66糎　衽幅15糎　相褄幅13糎　衿幅5·5－6糎　裄66糎

裁ち方積り方

○常幅1076糎の布を以て,本裁ち男單衣の裁ち方積り方。

所要裁ち切り寸法

袖丈55糎　衿肩明き9糎　衿下66糎　衽下19糎



積り方公式　(總尺－4袖丈＋2衽下)÷6＝身丈　身丈－衽下＝衽丈

同　算　式　(1076－55×4＋19×2)÷6＝149　149－19＝130

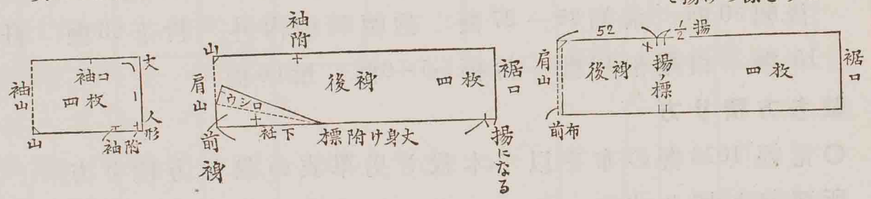
布の折り方は,女物に同じ

標附け方

(1) 袖　中表二枚合せて丈二つに折る

(2) 袴　その一　中表二枚合せて丈を二つに折る

(3) 袴　その二　肩を2糎後へ繰越して揚げの標をする



1. 丈を裁ち揃へる
2. 山標
3. 丈(上り袖丈＋0.4)
4. 袖口
5. 袖附け(人形)
6. 袖形及人形の處の袖幅標

1. 丈を裁ち揃へる
2. 山標
3. 身丈(上り身丈＋3)
4. 揚げになる分の丈を度る
5. 袖附け(袖と同寸)
6. 衽下

7. 肩山を後へ2繰り越す
8. 揚げ(肩山より50下つて揚げの半分の寸に度る)

衽及び衿の標附けは,寸法の差あるのみで女物に同じ。

縫ひ方

(1)袖

(イ) 袖の表を外にして,袖下を女物の如くに縫ひ,引き返して裏を出す。

(ロ) 袖附けを右に持ち,袖附け止りから縫ひ始め,人形・袖下・袖口下と續けて縫ひ,袖口標の處で,糸留めをして,袖口を絎ける,袖口の絎け方は,女物に同じ。

(ハ) 人形の角は,袖下を先に折つて,袖幅の縫ひ目の際に綴ぢ附け,次に袖幅を折つて,縫ひ込みを,袖下の縫ひ込みにとぢ附ける。袖形の拵へ方は,女物に同じ,表に引き返して,縫ひ目を正しくして,人形から上の袖幅標をする。

(2)衿下絎け　女物に同じ。

(3)肩當て・居敷當て・及び背縫ひ。

(イ) 肩當ての前後の端,及居敷當ての下端を,伏せ縫ひにする事。及背縫ひ·後幅·肩幅の標附けは,女物に同じ。

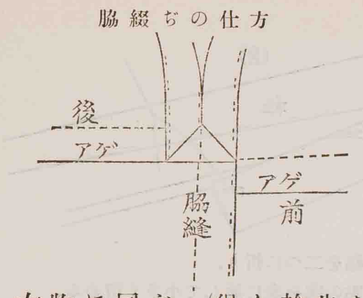
(ロ) ½揚げの標を山として,中表に折り,後は背縫ひを合せて,後幅標から標までを,揚げの標通りに縫ひ,前は布幅全體を縫ふ。折り被せは,淺くして,裾口の方へ返へす。

(ハ) 居敷當てを取り,上部の端は,内揚げの下に縫ひ代だけ入る樣にして,位置を定め,背に綴ぢ附け,上部は揚げの山を居敷當てと共に,褄に絎け附け,左右は耳絎け,又は折り絎けにする。(但し居敷當ての丈によつて女物と同樣にする時もある)。

(4)脇縫ひ

(イ) 左右共後褄を見て,脇を縫ひ,折りは前の方に返し,揚げより上に於て,後の縫ひ込みを開き,圖の如くに折つて綴ぢ,縫ひ込みの端を,耳絎けにする。

(5)衽附け,裾絎けは,女物に同じ。



(6)衿附け及衿絎け。

(イ) 表裏の衿で褄を挾んで附ける事は,女物と同樣,(但し裏衿附けには,被せをかけぬ)。

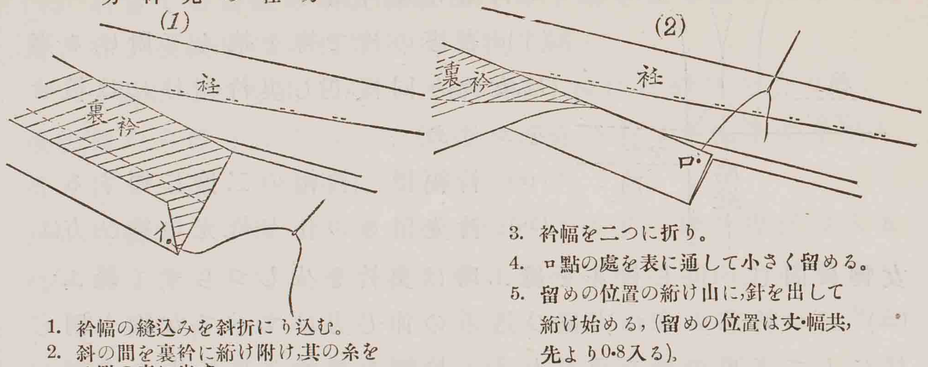
(ロ) 衿幅標　衿幅の二倍に標する。

(ハ) 衿先留めの仕方·衿先の縫ひ方は,女物に同じ。(但し衿先を縫ふ時は,裏衿を少しつらせて縫ふ)。

(ニ) 三つ衿芯の入れ方·縫ひ込みの伸し方は,すべて女物と同じ樣にして,表裏の衿を重ねたまゝ,衿幅を標通り裏に折る。

衿先は,一圖の如くにして,縫み込みを折り,衿先から0·8糎入り0·8糎上つた所を,十文字に針をかけて,表裏とも留め,其の糸を切らずに續けて衿絎け山に,眞直に針を出し,其處で一針逆針を使つて,小針に下前から絎け始め,上前衿先で終る(圖參照)

男衿先の仕方



1. 衿幅の縫込みを斜折にり込む。
2. 斜の間を裏衿に絎け附け,其の糸をイ點の表に出す。
3. 衿幅を二つに折り。
4. ロ點の處を表に通して小さく留める。
5. 留めの位置の絎け山に,針を出して絎け始める,(留めの位置は丈・幅共,先より0·8入る),

(7)共衿掛け

共衿先を表衿から裏衿へと廻して,縫ひ附けるのみで,他はすべて女物と同様。

(8)袖附け

(イ) 女物の如く,山及中間に待ち針を刺し,袖附け止りでは,袵で

袖を挾み淺く針をかけて留めをし,始めと終りとを,2−2·2糎返し針にして附ける事,女物に同じ。

(ロ)肩當て　肩當ての幅の端を,耳絎け或は折り絎けにして,袵の縫ひ込みに綴ぢ附ける。

(9)仕上げ　女物に同じ。

絹布・毛布男單衣の仕立て方。

(1)絹布男單衣仕立て方の,綿布男單衣,及び絹布女單衣と異なる點。

(イ) 袖下は,女物と同じく,外袖の縫ひ込みを折つて絎け,人形のところは,くせをとつて綴ぢ,縫ひ込みを後に開いて置き,袖幅の縫ひ込みを,絎け附ける際,共に續けて,人形の縫ひ込みをも絎ける。

(ロ) 居敷當ては,下端の兩角を斜に折り,上部は,裁ち目の儘にして置く。

(ハ) 内揚げは,前後とも,布幅全體を縫ふ。

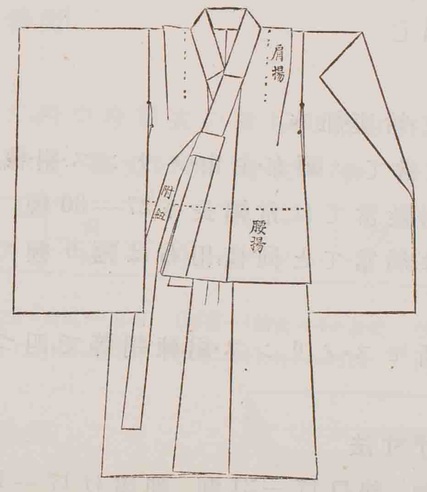
(ニ)脇縫ひ　女物に同じ(揚げの部分は,布が重つて居る故に,極小針に縫ふ)。

(2)毛布男單衣仕立て方の,綿布男單衣,及び毛布女單衣と異る點。人形は,返し縫ひにして,縫ひ目を割り,袖幅の縫ひ込みは,地薄の時は,縫ひ込みの端を折つて纏り,地厚な時には,耳又は裁ち目のまゝ,千鳥をかける。

四つ身單衣

各部の名稱　(圖參照)　他は,本裁ち單衣に同じ。

四つ身單衣



普通四五才から八九才頃までの子供の著用するのに適する。

裁ち方種類

四つ身裁ち摘み衽裁ち　車裁ち　逆衽裁ち　別衽裁ち等

地質本裁ちに同じ

用布

(肩當て·居敷當て·衿裏·紐布

イ) 肩當て·居敷當て　晒布·金巾·メリンス·絹·練絹等で,肩當ては,常幅長さ76糎,居敷當ては,常幅長さ27—30糎。

(ロ)衿裏　地質は,肩當てと同様,用布は幅6糎で,長さ表衿丈と同じ。

(ハ)紐布　金巾·新モス·メリンス·絹,練絹等で,四つ割又は半幅長さ76—95糎。

普通仕立て上げ寸法

袖丈53—60糎　袖口17—21糎　袖附け17—19糎　袖幅28—30糎

肩幅いつぱい　身丈113糎　身八つに9糎　衿肩明き6－6·5糎

衽下13－15糎　後幅25糎　前幅いつぱい　衿下30－45糎

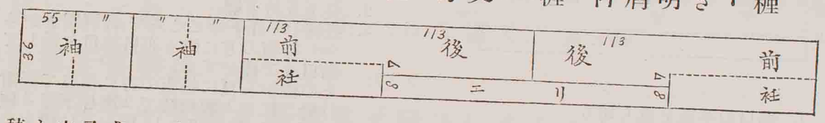
衽幅いつぱい　相褄幅(衽幅－0·8)　衿幅4·5糎

(別表標準寸法參照)

裁ち方積り方

○常幅の布を以て,四つ身單衣の裁ち方積り方。

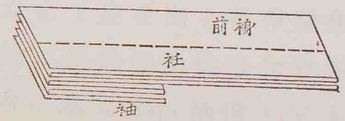
所要裁ち切り寸法　袖丈55糎　身丈113糎　衿肩明き7糎



積り方公式　4(袖丈＋身丈)＝用布　(用布－4袖丈÷4＝身丈　(用布－4身丈)÷4＝袖丈

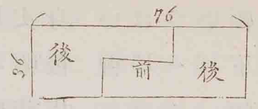
同　算　式　(55＋113)×4＝672　(672－55×4)÷4＝113　(672－113×4(÷4＝55

布の折り方　(圖參照)



肩當て裁ち方 (圖參照)

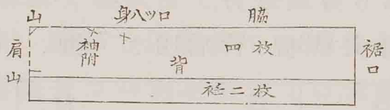
居敷當ては,幅を二つに折つておく。



標附け方

(1) 袖 本裁ち女物に同じ
(2) 衿

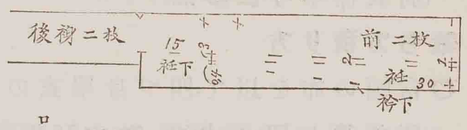
(イ) 布を中表に合せ前を下に後を上に丈を二つに折る



イ

1. 裾口の不揃を裁ち切る
2. 山標
3. 袖附け (袖と同寸)
4. 身八つ口

(ロ) 後二枚を開きて前布を出す

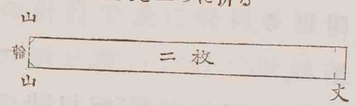


ロ

1. 後衿を二枚共左に開く
2. 袵下及衿下標
3. 袵附け 袵下のところで,衿肩明きから0.4 袵布の方に依り布目縞目を通して裾口まで標をする。
その標から更に袵布の方に裾口で袵附け縫ひ代を1糎相褄で2糎袵下で3糎と標して,其の間に15糎おきに標をつける。
4. 裾絎け代
5. 衿下絎け代
6. 衿附け標は,袵下りの,ところで,3糎の標から手前に 0.2糎に取り衿下標に當る,(此の斜の衿附寸法を度りおく出來上衿肩明+袵下+ユルミ+斜衿なり)
7. 衿丈を度る。

(3) 衿

中表に丈を二つに折る



1. 山標
2. 丈標

縫ひ方

(1) 袖、本裁ち女物に同じ,但し袖形をつけず,男物袖の人形の處の様にして,縫ひ込みを綴ぢつけて置く。

(2) 肩當て·背縫ひ。

(イ) 肩當ての下部を前後伏せ縫ひに,すること,本裁ちに同じ。

(ロ) 背を袋縫ひにする,縫ひ方は,外表に二枚合せて,0·4糎の縫ひ代で縫ひ,折りを一方に返し,引き返して裏を出し,背の縫ひ標通りに,待ち針を刺し,衿肩を右手に持ち,肩當てを向に合せ,本裁ちの時の如くに背を縫ふ,折りを手前に返して,後幅標をする。

(ハ) 肩當てと袵との釣合を取り,假綴ぢし,左右の幅の端を,袵に耳絎けにして,絎け附ける。

(3)衽附け及び衿下絎け。

衽の標と袵の標をを合せ,裾口で0·5糎,相褄で0·7糎,衽下で1·5糎にして待ち針を刺し,袵を見て縫ふ,折りは衽の方に返し,縫ひ込みを,絎け附ける。

(4)脇縫ひ及び裾絎けは,本裁ち女單衣に同じ。

(5)衿附け及び衿絎け。

(イ) 表衿と衿裏布とを二枚合せ,縫ひ代一ばいに,端から端まで縫ひ,折りを裏衿の方へ返して,隱し躾けをかける。

(ロ) 衿附けの釣り合ひは,本裁ちに同じで,附け方も裏·表衿で袵を挾んで,附けたところを表一枚で附けるだけが違ふ。

(ハ) 折りを,衿の方に返し,衿幅を二つにして,左右の衿先を縫ふ。其の仕方は左右衿先を留め,衿幅を二つに折り,0·4糎内を縫ひ,其

の縫ひ目は裏の方に返し,三つ衿に,別布を芯に入れ,衽の縫ひ込みを平にして,1糎の針目で,表に針目の出ぬ樣に絎ける。

(6)共衿掛け　共衿の幅が狹いだけで,掛け方は男物に同じである。但し幅が極狹い時は,裏側は小さく耳絎けにする。

(7)袖附け　袵の縫ひ込みが淺いから,袖附けが直になるのみで,本裁ち女物と變らぬ。

(8)肩當幅の端を,袖附けの,縫目に絎けつける,但し幅の狹い時は,幅一ばいにして,絎けつける。

(9)肩揚げ及腰揚げ。

(イ) 肩揚げ　背の縫ひ目と,袖附けの縫ひ目との中央,即ち肩幅の中央を,揚げ山にして,後袖附け止りまで,布目縞目を眞直に折り,前は袖附け止りから,2糎位上つた所で,揚げ山を袖附けの方へ1糎寄せ,肩山まで自然に曲げて,折りを附け,縫ひ糸二本で,始め終りは一針返し針にし,大針2·5糎にして,表には小針を出し,肩

山の處は,表に三針小針を出して,揚げをする。

但し前揚げでは,後揚げ寸法よりも,0·8糎乃至1糎少なくして,揚げをする。

又揚げの多い場合は,衿附け縫ひ目から,0·8糎位離れた處を,揚げの縫ひ目にする事もある。

(ロ)腰揚げ

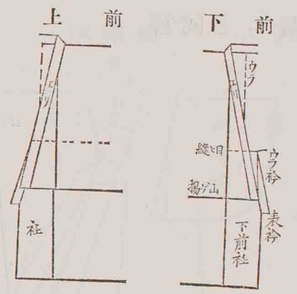
衿山より裾口の方を,4糎或は6糎出して,身丈を二つに折り,其の中央を山にして,各縫ひ目を合せ,上前は衿山を揃へ,廣い方に一つ,又は二つ襞を取り(襞の向きは,衽附け縫ひ目の方に向け)下前は衿先から,衿幅だけ先に出し尙廣い時は,其の分だけ)襞を取る前の方は,後揚げ寸法より0·8糎多くして,脇縫ひ目から斜に曲げ,各縫ひ目では,一針返し針をして,肩揚げと同樣に,二本糸にてする。

但し揚げの位置は,揚げの多少により恰好のよい處に定める。

(圖參照)

(9) 附け紐

(イ) 布を中表にして,二つに折り,一方の端及丈の方を,端から端まで縫ひ,竪を先に幅を後に折り返し,一方の縫ひ殘した處から,表に引きかへして,躾けをかける。



(ロ) 紐幅の狹い時は,身八つ口止りから下に,又廣い時は身八つ口止りに,紐幅の中央を合せて,男兒なれば縫ひ目を下向けに,女兒なれば上向けにして,紐の端を衿の附け際に,半返しで縫ひつけ,折り返へして三方を絎ける (九十頁附け方圖解參照)

(10) 居敷當て

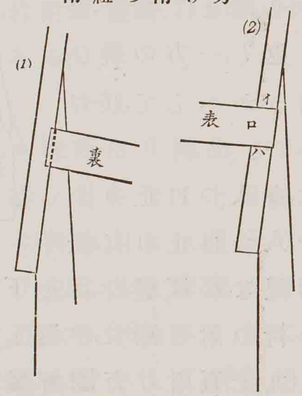
裾口から15糎乃至19糎上つた所につける,附け方は本裁ちと同

様なれば省く。

(11) 仕上げ

本裁ちと同様。

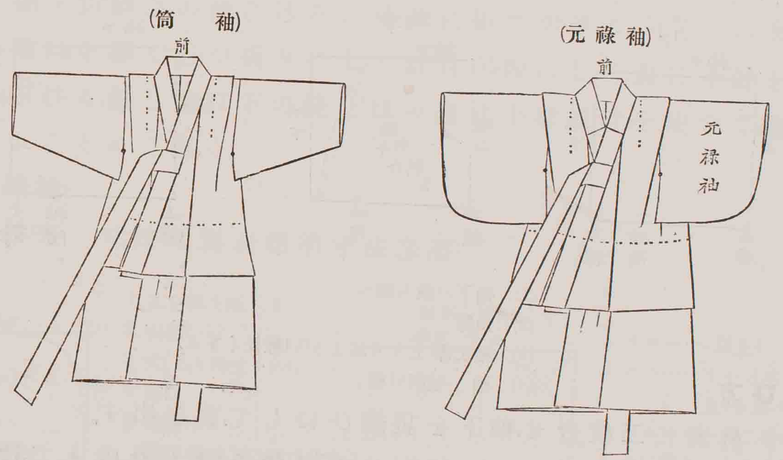
附紐の附け方



1, 附け紐の端を, 返し針にて表衿に縫ひ附ける。　2, イ ロ ハを表衿に衍け附ける。

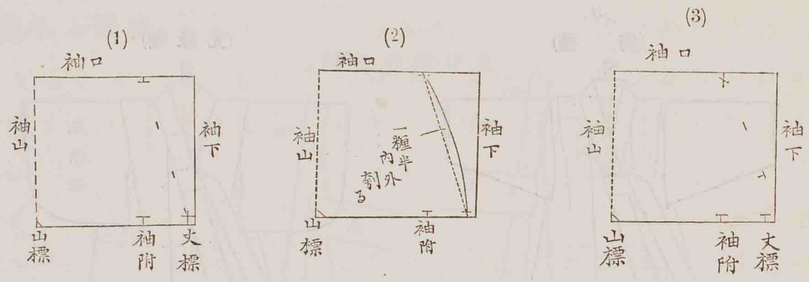
筒袖·元祿袖の標附け方及縫ひ方

出來上り圖



(1) 筒袖

標附け方 (寸法は別表標準寸法參照)



(1) 袖下の裁ち揃へ
(2) 山標
(3) 袖丈標(上り寸法より0.4糎長くする)
(4) 袖 ·袖附け標

縫ひ方

(イ) 外表に二枚合せ,袖下を袋縫ひにして,裏を出す。丈標を合せて,袖幅標から袖口は,繕け代を殘した處まで,標通りに斜に縫ひ,前袖に折りを返へす。

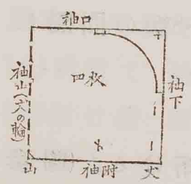
(ロ) 袖口下の縫ひ込みは,裁ち目の場合は,端を折つて繕つけ,耳なれば耳繕けにしておく。

(ハ) 袖下袋縫ひの縫ひ込みは,前袖に繕け附ける。

(ニ) 袖口を細く三つ折りにして,針目1·5糎にして,表に小針を出して繕ける,但し袖口下の縫ひ目の處は,小針逆針を使つて,縫ひ目をよくとめて置く。

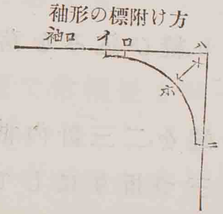
(2) 元祿袖

標附け方 (寸法は別表標準寸法參照)



1 丈を裁ち揃へる
2 山標
3 丈(上り袖丈+0.4)
4 袖口
5 袖附け
6 袖形 袖口下の縫ひ代を,0.6と定めて形の附け方圖參照

袖形の標附け方



1 イロ……以上4
2 ハニ……イハ寸法に2以上4を加へる
3 ハホ…ロハの二分の一
4 ホに當りニよりイに丸みを附ける

縫ひ方

(イ) 袖下を袋縫ひにする,振り八つの方で縫ひ込みの二倍を殘し,袖口の方では丸みだけを殘す。

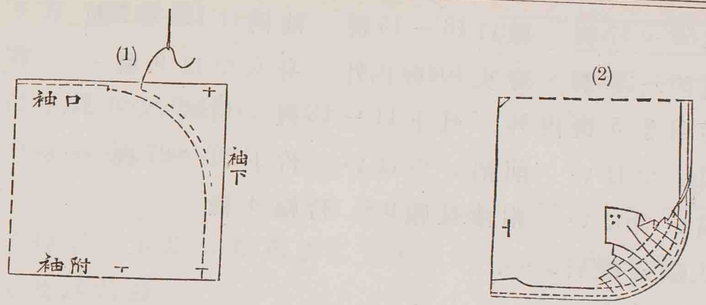
(ロ) 裏に返して丈標を合せ,幅の端から縫ひ始め丸みから袖口止り迄は,小針に縫ひ,袖口止りで固く止め,5糎の間斜に縫ひ返しくせを取る。

(ハ) 丸みに襞を取る,其の仕方は,袖下の縫ひ目(丸みの止りから止りまで)より,0·6糎離れた處を,小針に縫ひ縮めて,袖下を折り返す。

(ニ) 襞を數多取り,縫ひ込みを落ちつけて,襞山を(·8糎の間隔にに二度)押へる。

(ホ) 縫ひ込みの端を,二三針内袖に綴ぢつける。

(ヘ) 袖口を細く三つ折りにして,長袖の時の如く絎ける。(圖參照)。



三つ身單衣

三歳から五歳位の子供の著用に適する。

用布 肩當て·附け紐·及び衿裏。

(イ)肩當て 地質は,本裁ちと同樣で,常幅長さ45—50糎。

(ロ)附け紐 四つ身に同じ。

(ハ)衿裏 幅6糎長さ表衿と同丈で地質は四つ身に同じ。

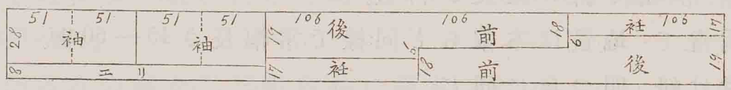
普通仕立て上げ寸法

袖丈50－57糎　袖口13－15糎　袖附け15－17糎
袖幅23－27糎　身丈104糎内外　身八つ口9糎
衿肩明き5糎内外　衽下11－13糎　肩幅いつぱい
後幅いつぱい　前幅いつぱい　衿下23－27糎
衽幅いつぱい　相褄(衽幅0·8)　衿幅4糎
附け紐27糎(肩より)。

裁ち方,積り方

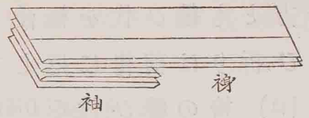
○常幅兩面物を以て,三つ身單衣の裁ち方積り方。

裁ち切り寸法　袖丈51糎　身丈106糎　衿肩明き6糎。



積り方公式　4袖丈＋3身丈＝用布　(用布－4袖丈)÷3＝身丈　(用布－3身丈)÷4＝袖丈
同　算　式　51×4＋106×3＝522　(522－51×4)÷3＝103　(522－103×3)÷4＝51

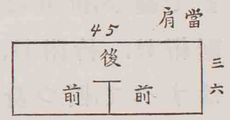
布の折り方　(圖參照)



標附け方

袖·袵衽は,本裁ち女單衣に同じ。

衿は四つ身單衣に同じ。



縫ひ方

(1)袖　(2)衿下　本裁ち女單衣に同じ。

(3)肩當て及び背縫ひ。

(イ)肩當て　圖に示すやうに裁つ,袵に倣つて衿肩を明け,前後丈の兩端は耳のまゝになしおく。

(ロ)背を袋縫ひにして,肩當ての後幅の中央を,背に合せ,肩當て布と同色の糸で,2糎—2·3糎の針目で綴ぢつける,肩當て幅の兩端,及び前縫ひ込みの仕末は,四つ身に同じ。

(4)脇縫ひ　四つ身に同じ。

(5)衽附け　袋縫ひにする,先づ前袵と衽とを,外表にして合せ,双

方とも縫ひ代を極淺く,裾口は紉け代だけ殘し,上は衽下まで縫ひ,折りは前袵に返して裏を出す。

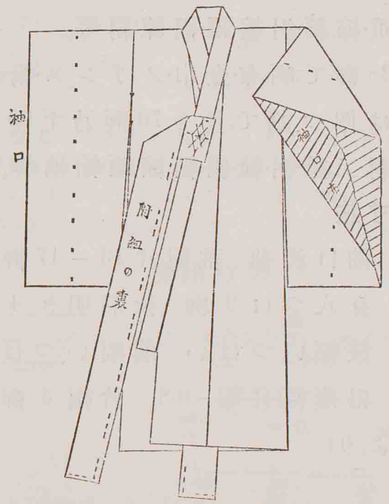
(ロ) 袵の縫ひ代を0·5糎とし,衽は附けの標し通りに,裾口から衽下まで縫ひ,折りは衽の方に返して,縫ひ込みを紉けつける。

(6) 裾紉け, 衿附け, 共衿掛, 紐附け, 肩揚げ, 腰揚げ, 仕上げ, 等はすべて,四つ身單衣と同樣なれば略する。

一つ身單衣

各部の名稱 圖參照

普通初生兒から二三歲までの,子供の著用に適する。



用布

袖口布·肩當て·附け紐

袖口布　常幅四つ割で,袖丈と同じ長さのもの二枚,地質は,絹·紅絹·メリンス·羽二重·縮緬·絽縮緬·絽·練絹等。

肩當　常幅長さ38糎で,晒布·金巾·メリンス·絹·練絹等。

附け紐　半幅又は四つ割で,長さ76糎乃至95糎,地質は晒布·金巾·新モス·メリンス·羽二重·絽·練絹·絽縮緬·縮緬等。

普通仕立て上げ寸法

袖丈38－57糎　袖口濶袖　袖附け13－17糎　袖幅19糎内外

身丈68－95糎　身八つ口9糎　衿肩明き4糎　衽下9糎

肩幅いつぱい　後幅いつぱい　前幅いつぱい　衽下17－19糎

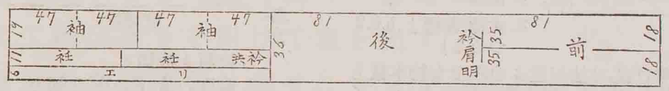
衽幅11糎内外　相褄幅(衽幅－0·8)　衿幅3糎内外　紵いつぱい

附け紐25糎(肩より)。

裁ち方積り方

○常幅の布を以つて,一つ身單衣の裁ち方及び積り方。

裁ち切り寸法　袖丈47糎　衽下9糎　身丈81糎　衿肩明き4糎



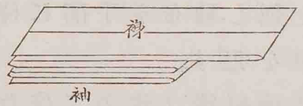
積り方公式　4袖丈＋2身丈＝用布　身丈－衽下＝衽丈

(用布－4袖丈)÷2＝身丈　(用布－2身丈÷4＝袖丈

同算式　47×4＋81×2＝350　81－9＝72

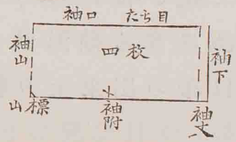
(350－44×4)÷2－81　(350－81×2)÷4＝47

布の折り方



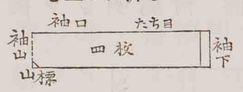
標附け方

(1)　袖布を中表に二枚重ね丈を二つに折る



1. 袖下裁ち揃へ
2. 山標
3. 丈標(上り袖丈＋0.4)
4. 袖附け標

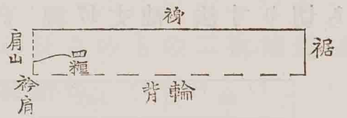
(袖口布)
(2) 二枚を中表に重ね丈を二つに折る



1. 袖下裁ち揃へ
2. 山標
3. 丈標(表標より0.2つめる)

衽・衿の標附けは,寸法が違ふのみで女物本裁ち及四つ身單衣と同樣　但し背は輪のまゝ。

(3) 褄　中表に幅二つに折り更に丈二つに折る。



1, 衿肩4糎切る
2, 前褄の輪(下の布)を切る
3, 標附けは本裁ち女單衣に同じ

縫ひ方

(1) 袖

(イ) 袖布と袖口布とを,中表に合せ,袖口布をつれ氣味に,釣り合ひを取つて,袖丈標及び袖山に待ち針を刺し,袖布を手前に持ち,丈の標から標まで縫ひ,袖口の方へ折りを返す。

(ロ) 袖下を袋縫ひにする袖附けの方は,袖幅縫ひ代の二倍だけ殘し,口の方は,袖口布の出來上り幅だけ殘して,淺く縫ひ,裏に引きかへす。

袖口先の處は,前袖で後袖をくるみ,四枚糸留めをして,其の糸を切らず,續けて丈標の處を,袖口布の奥の方,紵け代の二倍だけ手前まで,四つ縫ひにして其の處で一針返し針をして,袖下を布幅の終りまで縫ひ,折りを附けて表を出す。

(ニ) 袖口を正しく毛抜き合せにするか,又は袵を0·1糎位出して躾けをかけ,袖口布の奥を紵ける。

(ホ) 袖口を左に,袖附けを右に置き,袖幅標をする。

(2) 衿下紵け　四つ身に同じ。

(3) 肩當て及び脇縫ひ,衽附け等は,三つ身單衣に同じ

(4) 裾紵け, 衿附け, 共衿かけ, 袖附け, 振り紵け, 紐附け, 肩揚げ, 腰揚げ, 仕上げ等は, 四つ身單衣に同じ。

肩當て及び褄に背の縫ひ目がないから,中央を,假に躾け糸で綴ぢおく。

(5) 背守り縫ひ及び紐飾り　衿付け縫ひ目から,2糎−2·6糎下つた

處に,絹糸二本で,糸の撚れない様に,下圖中適宜のものを選んでして置く。

附け紐には,衿幅の間で紐幅一ぱいに,普通絹糸二本で紐飾りを,する。

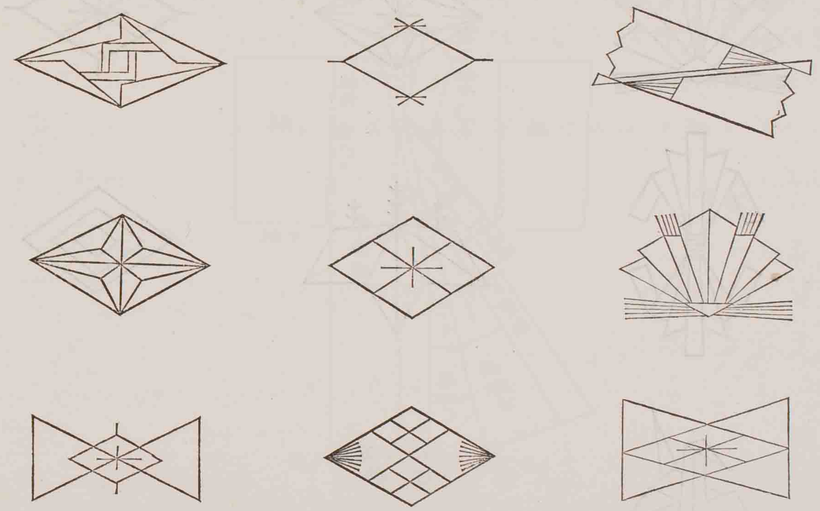
いづれも,飾り糸の色に注意して,洗濯をしても,他に色の染まらぬ,調和のよい糸を用ひねばならぬ。

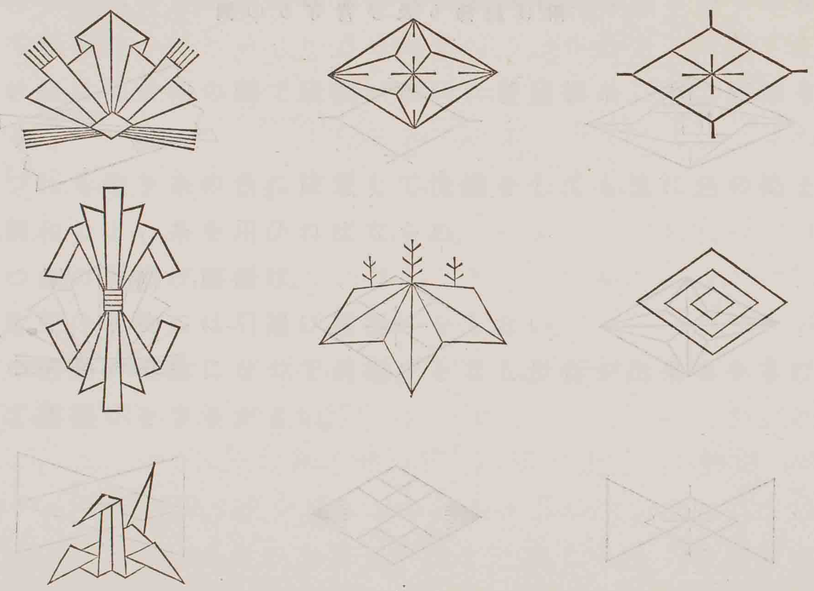
一つ身の肩揚げ,腰揚げ。

初生兒の着物には,肩揚げ,腰揚げをしない。

手の活動が,自由になつて,肩揚げをなし,歩行が出來るやうになつて,腰揚げをするがよい。

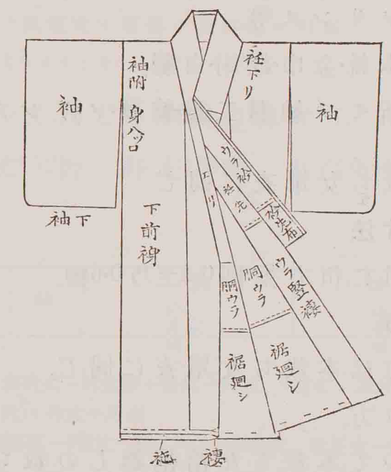
附け紐飾り及び背守りの圖





裁ち女袷本

各部の名稱　圖參照



地質

表地
- 綿布＝木綿·瓦斯等。
- 絹布＝銘仙·縮緬·御召·羽二重·絲織·紬等。
- 毛布＝メリンヌ等。

裏地
- 胴裏＝木綿·金巾·紅絹·白絹。
- 裾廻＝新モス·紬羽二重·縮緬·メリンス。

裁ち方種類　本裁ち女單衣に同じ

普通仕立て上げ寸法

本裁ち女單衣に同じ,但し裾袵0·4至乃0·6糎。

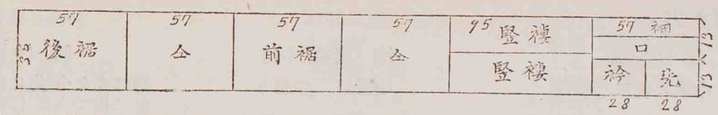
裁ち方及び積り方

表の裁ち方·積り方は,本裁ち女單衣に同じ。

裏地の裁ち方積り方。

○常幅の布を以つて,本裁ち女袷裾廻しの裁ち方。

裾廻の高さ57糎



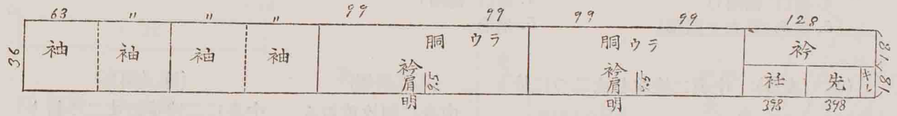
積り方公式　4裾廻丈＋竪褄＋袖口布＝用布

同　算　式　57×4＋95＋57＝380

○常幅の布を以つて,同じく胴裏の裁ち方。（表及び裾廻しの寸法に依つて裁つ）

袖丈63糎　身丈152糎　衽丈130糎　出袵0·4糎　胴接ぎ代4糎

衿接ぎ代4糎



積り方公式　表衿丈－衿先布＋接代＝衿丈　4袖丈＋(表身丈－裾廻丈＋2出袵＋胴接代)＋衿丈＝用布

(用布－4袖丈－衿丈)÷4＝胴裏丈　表衽丈－竪褄＋2出袵＋接代＝衽先布丈

同　算　式　180－28×2＋4＝128　{63＋(152－57＋0.4×2＋4)}×4＋128＝779

(779－63×4－128)÷4＝99　130－95＋0.4×2＋4＝39.8